

第6講 使役・受身・比較と選択

基本事項

使役

(1) 使役の助字「使・令・教・遣・俾」を用いた使役形

使^ム A B C

① AヲシテCニ「ヲ」B(セ)シム。
② AにCに「を」Bさせる。

例 湯使^ム 人^{ヲシテ} 以^テ 幣^ヲ 聘^レ 之^ヲ。

① 湯王は使者に贈り物をもってこれを招聘させた。
② 湯人をして幣を以て之を聘せしむ。

・使・令・教・遣・俾はすべて「〜シム」と読む。助動詞として訓読する。

(2) 使役の意味を含む動詞「命・説・遣・召」などを用いた使役形

命^レ A B C

① AニめいジテCニ「ヲ」B(セ)シム。
② Aに命令してCに「を」Bさせる。

・「説キテ」(セ)シム」「遣ハシテ」(セ)シム」のように読む。

受身

(1) 受身の助字「見・被・所・為」を用いた受身形

見^ル A

① Aる。／A(セ)ラル。
② Aされる。

・「見放(放たる)」「被^レ害(害せらる)」「所^レ制(制せらる)」「為^レ斬(斬らる)」のように読む。受身の助動詞として訓読する。

(2) 置き字「於・于・乎」を用いた受身形

A^ニ 於 B^ニ

① BニAル。／A(セ)ラル。
② BにAされる。

・「治^ニ於 人^ニ(人に治めらる)」のように訓読する。
・「於・于・乎」と「見・被・所・為」を併用することもできる。

(3) 慣用的な表現を用いた受身形

為^ル A 所^ト B

① AノB(スル)ところトナル。
② AにBされる。

例 章後^ニ 為^ル 王^ノ 莽^ノ 所^ト 殺^ス。

① 章後に王莽の殺す所と為る。
② 章は後に王莽に殺された。

比較

(1) 置き字「於・于・乎」を用いた比較形

A C^ニ 於 B^ニ

① AハBヨリ(モ)C(ナリ)。
② AはBよりもCである。

(2) 「如・若」を用いた比較形

A^ハ 不^レ 如^カ (若) B^ニ

① AハBニシカズ。
② AはBに及ばない。

(3) 「莫・無」を用いて最上級を表す比較形

莫^シ(無) 如^{クハ} (若) A^ニ

① Aニシクハなし。
② Aに及ぶものはない。

例 知^ル 臣^ヲ 莫^シ 如^{クハ} 主^ニ。

① 臣下を知ることにおいて、君主に及ぶものはない。
② 臣を知るは主に如くは莫し。

選択

(1) 比較の助字「与」を用いる選択形

与^ニ 其 A^ニ 寧 B^ニ

① そのA(セ)ンよりハむしろB(セ)ン。
② Aするよりは、むしろBする方がいい。

例 与^ニ 人^ノ 刃^ヲ 我^ヲ 寧^ニ 自^レ 刃^ル。

① 人の我を刃せんよりは、寧ろ自刃せん。
② 人が私を殺してしまふよりは、むしろ自刃する方がいい。

(2) 「寧・孰」を用いた選択形

寧 A、無^レ B

① むしろA(ス)トモ、B(スル)「コト」なカレ。
② むしろAであったとしても、Bしてはならない。

A^ハ 孰^{コト} 与^レ (孰) 若 B^ニ

① AはBに比べどうか。
② AはBに比べてどうか。

例 坐^{シテ} 而^{シテ} 待^ツ 亡^ヲ 孰^{コト} 与^レ 伐^ツ 之^ヲ。

① 坐して亡ぶるを待つは、之を伐つに孰与れぞ。
② 座つて滅ぶのを待つのと、伐つて出るとではどちらがよいか。

例題

1 次の各漢文を書き下し文に改めよ（一部送り仮名を省略したところがある）。

(1) 使_レ使_レ之_レ楚_ニ請_レ救_ヒ。

(2) 太_レ宰_レ伯_レ嚳_レ受_ケ越_ノ賂_ニ説_キ夫_ノ差_ニ赦_レ越_ヲ。

(3) 昔_レ者_レ弥_レ子_レ瑕_カ見_レ愛_ニ於_テ衛_ノ君_ニ。

(4) 牛_ノ缺_ケ為_ニ盜_ノ所_レ奪_フ。

(注) 牛缺_ニ人名。

2 書き下し文をもとに、各漢文に返り点を付けよ（送り仮名は不要）。

(1) 文帝嘗_テ東_レ阿_レ王_ヲして七_ノ步_ノ中_ニ詩_ヲ作_ラしむ。

文帝嘗_テ東_レ阿_レ王_ヲして七_ノ步_ノ中_ニ詩_ヲ作_ラしむ。

(2) 惆_レ悵_ス滄_レ江_ノ上_ニ西_レ風_ノ教_ヲ客_ニ醒_ス。

惆_レ悵_ス滄_レ江_ノ上_ニ西_レ風_ノ教_ヲ客_ニ醒_ス。

(3) 金_ノ人_ノ汴_ニ至_リ宗_ノ澤_ノ敗_ル所_ト為_ル。

金_ノ人_ノ汴_ニ至_リ宗_ノ澤_ノ敗_ル所_ト為_ル。

(4) 厚_キ者_ハ戮_セられ_{薄_キ者_ハ疑_ハる。}

厚_キ者_ハ戮_セられ_{薄_キ者_ハ疑_ハる。}

(5) 心_ヲ勞_スる者_ハ人_ヲ治_メ力_ヲ勞_スる者_ハ人_ニ治_メらる。

心_ヲ勞_スる者_ハ人_ヲ治_メ力_ヲ勞_スる者_ハ人_ニ治_メらる。

3 次の各漢文を書き下し文に改めよ（一部送り仮名を省略したところがある）。

(1) 百_ノ星_ノ之_レ明_モ不_レ如_ニ一_ノ月_ノ之_レ光_ニ。

(2) 輔_レ世_ヲ長_レ民_ニ莫_レ如_レ德_ニ。

(3) 天_ノ下_ノ之_レ物_ノ莫_ニ柔_ニ弱_ナ於_テ水_ニ。

(4) 礼_ハ与_レ奢_ナ也_{寧_儉ナレ}。

(5) 寧_{為_ニ刑_ノ罰_ノ所_レ加_ハ不_レ為_ニ陳_ノ君_ノ所_レ短_ス。}

(6) 公_ノ之_レ視_ニ廉_ノ将_ノ軍_ヲ孰_コ与_テ秦_ノ王_ニ。

4 書き下し文をもとに、各漢文に返り点を付けよ（送り仮名は不要）。

(1) 季_ノ氏_ノ周_ノ公_ノよりも富_メり。

季_ノ氏_ノ周_ノ公_ノよりも富_メり。

(2) 地_ヲ益_スすは信_ヲ益_スすを之_レ務_ムるに如_カざるなり。

地_ヲ益_スすは信_ヲ益_スすを之_レ務_ムるに如_カざるなり。

(3) 其_ノ聚_斂之_レ臣_ノ有_ラんよりは、寧_ろ盜_臣有_レれ。

其_ノ聚_斂之_レ臣_ノ有_ラんよりは、寧_ろ盜_臣有_レれ。

(4) 寧_ろ君子_ニ過_ルるも、小_人に失_ハるること母_カれ。

寧_ろ君子_ニ過_ルるも、小_人に失_ハるること母_カれ。

寧_ろ過_ル於_テ君_ノ子_ニ而_モ母_ト失_ハ於_テ小_人。

(5) 趙_ヲ救_フは、救_フ勿_クきに孰_レ与_レれぞ。

趙_ヲ救_フは、救_フ勿_クきに孰_レ与_レれぞ。

① 次の漢文の傍線部はすべて人物名を表す。後の動詞のうち、それぞれの人物の動作を表す動詞を選び、○で囲め。

(1) 相如顧^{ミテ} 召^シ趙^ヲ 御史^ヲ 書^ク 曰^ク。

〔 召・書 〕

(2) 相如顧^{ミテ} 召^シ趙^ヲ 御史^ヲ 書^ク 曰^ク。

〔 召・書 〕

(3) 昭公^ヲ 為^リ季氏^ノ 所^レ 逐^フ 出^テ 於^テ 齊^ニ 国^ニ 果^{シテ} 空^{トナル} 虚^{トナル}。

〔 逐・出 〕

(4) 昭公^ヲ 為^リ季氏^ノ 所^レ 逐^フ 出^テ 於^テ 齊^ニ 国^ニ 果^{シテ} 空^{トナル} 虚^{トナル}。

〔 逐・出 〕

ヒント

- (1) (2) 使役の文。誰が「召」し、誰が「書」いたのか、それぞれの主語を明確にしよう。
 (3) (4) 受身を含む文。誰が「逐」い、誰が「出」たのか、それぞれの主語を明確にして事実関係を確認しよう。

② 現代語訳をもとに、各漢文に返り点を付けよ（送り仮名は不要）。

(1) 項王は都尉陳平に沛公を召しに行かせた。

項王 使 都尉 陳平 召 沛公。

(2) 天祥は捕らえられ、毒を飲んだが死ねなかった。

(注) 執^ニとらふ。 腦子^ニ毒薬。

天祥 被 執、吞 腦子 不 死。

(3) 無実の者を殺すよりは、むしろ法の運用に問題がある方がましだ。

(注) 不辜^ニ無実の者という意味の熟語。

不經^ニ（法に照らして）筋が通らないことという意味の熟語。

与 其 殺 不 辜、寧 失 不 經。

③ 空欄に適切な語句を書き、現代語訳を完成させよ。

(1) 「使」がどの動詞にいたらいいかを考える。

(2) 「捕らえられた」「飲んだ」「死ねなかった」の三つの述語動詞に分けて考える。

(3) 比較の文で、「殺不辜」と「失不經」が比べられている。

ヒント

(1) 師^ハ 不^ニ必^ズ 賢^{ナラ} 於^テ 弟^ノ 子^ニ。

(2) 師^ハ 必^ズ 賢^{ナラ} 於^テ 弟^ノ 子^ニ。

(3) 為^レ 将^ト 数^ニ 歳^ヲ 反^レ 不^レ 如^カ 一^ニ 豎^ニ 儒^ノ 之^ノ 功^ニ 乎^ニ。

(注) 豎^ニ若いこと。「豎」は若い男性を軽んじて言う言葉。

將軍となつて数年になるのに、かえつて一人の若い学者の功績に

(3) 終身之計、莫^シ如^{クハ}樹^{ルニ}人。

(注) 樹^{ルニ}人^ヲ人を育てること。

(4) 一生の計画なら、「

子曰、奢^{ナド} 則^チ 不^レ 遜^{ナリ} 儉^{ナド} 則^チ 固^{ナリ} 与^{リハ} 其^ノ 不^レ 遜^{ナリ} 也、寧^ロ 固^{ナリ}。

先生が言った、ぜいたくは不遜になる。儉約は頑固になる。「

(5) 与^{リハ} 其^ノ 生^{キテ} 而^{シテ} 無^レ 義^{カシ}、固^シ 不^レ 如^カ 烹^ニ。

(注) 無^レ義^{カシ}道を踏み外すこと。 烹^ニ釜ゆでの刑で殺されること。

ヒント

(1) 「不^レ必^ズ」は部分否定。

(2) 「不^レ如^{クハ}乎^ニ」の形に注意する。

(3) 「不^レ如^{クハ}乎^ニ」の形と「莫^シ如^{クハ}」の形を比較して意味を考えよう。

(4) 「与^{リハ}其^ノ、寧^ロ」の形で「不遜」と「固」を比べていることに注意する。

(5) (4)と同じ「与其」で始まっている。

④ 文侯の治世で国力を蓄えた魏だが、文侯没後、宰相を拜命したのは軍功のある呉起ではなく、儒家の田文だった。次の文章はその頃のことを記したものである。これを読んで、後の問に答えよ（設問の都合で訓点を省いたところがある）。

魏置相。相田文。呉起不悦。謂田文曰、請与子論功。可乎。田文曰、可。起曰、将三軍、使士卒楽死、敵国不敢謀。子孰与起。文曰、不如子。起曰、治二百官、親万民、实府庫、子孰与起。文曰、不如子。起曰、守西河、而秦兵不敢东。郷韓・趙賓従、子孰与起。文曰、不如子。起曰、此三者、子皆出吾下。而位加吾上、何也。文曰、主少国疑、大臣未附、百姓不信。方是之时、属之於子乎。属之於我乎。起默然良久曰、属之子矣。文曰、此乃吾所以居子之上也。呉起乃自知弗如田文。

〔史記〕孫子呉起列伝

〔注〕楽死＝命を捨てて戦いたいと思う。

謀＝侵攻をくわだてる。手出しする。

東郷＝東に向かう。秦から見て魏は東にある。

賓従＝心から従う。服従する。

(1) 傍線部①を現代語訳せよ。

〔 〕

(2) 傍線部②は「あなたと起（私）ではどちらが上か」という意味である。すべてひらがなで書き下し文に改めよ。

〔 〕

(3) 傍線部③は「あなたに及ばない」という意味だが、誰が誰に及ばないのか、文章中の語句を用いて説明せよ。

〔 〕

(4) 傍線部④について「之を子に属す」とはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

ア 国の宰相を田文に任せること。

イ 国の宰相を呉起に任せること。

ウ 国難の責任を田文に取らせること。

エ 国難の責任を呉起に取らせること。

〔 〕

(5) この文章の内容と合致するものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

ア 呉起と田文はともに三軍を率い軍功を積み上げた。

イ 田文は役人をまとめ、国政の安定に寄与した。

ウ 秦は魏に攻め入るも国境を侵すことができなかった。

エ 田文は呉起に功績のないことを詰め寄られ沈黙した。

オ 呉起は現状では田文にかなわないと自覚した。

〔 〕